

1 研究主題

「わかる・できる喜び」を味わわせる授業の創造  
- 基礎的・基本的内容の定着と生徒が主体的に活動する指導の在り方の研究 -

2 研究主題について

本校では、「確かな学力」の育成に視点をあてて研究を進めており、授業の充実が図られ、生徒が落ち着いて授業に取り組むようになってきた。しかし、生徒が進んで発表したり、主体的に活動したりする場面は少なかった。そこで、平成18年度から、基礎的・基本的な内容の確実な定着を目指した授業の更なる充実、生徒が目的意識を持って活動する場の設定や指導の在り方、それを支える学業指導や個に応じた指導の充実について研究・実践を進めることにした。これにより、生徒は基礎的・基本的な事項を身につけるとともに「わかる・できる喜び」を味わい、自ら主体的に学ぶ態度や課題を解決する能力を身につけることができるのではないかと考えた。

“主体的に活動する”とは  
1 単位時間や1 単元の中で、生徒が目的意識・問題意識を持って学習に取り組む。  
学習活動を展開していく中で、生徒が自分の向上のため努力し、学習終了後に達成感を味わうことができる。  
教師は、学習の段取りの設定や見届け、意図的な活動の場の設定などを行う。

3 研修の全体構想

《学校教育目標》「生命に深くこだまする明和中の生徒を育てる」  
- 礼節を弁え、感謝の心で気力を前面に出して主体的に行動する生徒の育成 -

【重点課題】 ~ 生徒自らが気づき、考え主体的に行動する学校の創造 ~

(1) 確かな学力の育成      (2) 心の教育の充実      (3) 生徒指導の充実      (4) 飽める勵めた教づくりの推進      (5) 中小連携・地域連携

[ 研究主題 ]

「わかる・できる喜び」を味わわせる授業の創造  
- 基礎的・基本的内容の定着と生徒が主体的に活動する指導の在り方の研究 -

[ 研修による重点課題の具体化 ]

- (1) 生徒の実態の把握と全校態勢の確立
  - ・ 学力向上推進委員会の充実
  - ・ 各種評価の実施と分析、改善策の検討(学力、学習状況、意識、生活実態)
- (2) 授業の充実
  - ・ 基礎的、基本的な内容の確実な定着(目標の明確化、定着の場の設定、宅習課題の工夫)
  - ・ 自ら課題を見出し、解決する授業の充実(指導過程の工夫、発表や活動の場の設定)
  - ・ 研究授業の計画的実施(外部講師の招聘)
- (3) 学業指導の充実
  - ・ 授業の基本的な躰の定着
  - ・ 家庭学習の習慣化の推進
  - ・ 学び方の指導の充実(教科学習の仕方、テスト勉強の仕方、学び方タイム)
- (4) 個に応じた指導の充実
  - ・ 少人数指導、習熟の程度に応じた指導、T T指導の充実、選択教科の指導の充実
  - ・ 学業相談の充実、授業外の個別指導の充実
  - ・ 生徒の特性に応じた特別支援教育の実践と事例研究

( 教科領域等研修 )

生徒指導に関する研修	特別支援教育に関する研修	人権同和教育に関する研修
教育相談に関する研修	健康相談に関する研修	教科経営に関する研修
情報教育に関する研修	教育評価に関する研修	教育課程に関する研修
総合的な学習の時間に関する研修		

#### 4 本年度の実践（重点課題の具体化）

##### （1） 生徒の実態の把握と全校態勢の確立について

###### 【生徒の実態把握】

基礎基本定着度調査の分析と各教科の具体策の検討（4月）

標準学力検査(NRT)の分析の仕方についての研修の実施（8月）

標準学力検査(NRT)の分析と具体策の検討（8月下旬）

NRTの分析を基に、2学期からの学習指導に対する具体的な取り組みを各教科や学年毎に話し合った。

基礎・基本定着度調査の結果を分析し、対応策について検討した。（2月）

###### 【全校態勢の確立】 学力向上推進委員会の充実と共通理解・共通実践

学力向上推進委員会は、校長、教頭、学年主任、学業指導係、教科代表計7名で構成し、毎週水曜日の2校時に開催している。また、翌日は、話し合った内容を全職員へ報告し、共通理解・共通実践に努めた。主な活動内容は以下の通りである。

学力に関する現状と課題・解決策の協議，実践化に向けての具体策の検討

- ・ 学力の実態分析について
- ・ 家庭学習に関するアンケート分析
- ・ 学び方タイムの進め方について
- ・ 各教科・学年の取り組み事例の検討
- ・ 共通実践事項について等課題と解決策の協議

- 【成果】
- ・ 様々な立場からの意見をもとに課題を明らかにし、実践への方向づけができた。
  - ・ 学力に関する情報提供をすることで、学力向上に対する職員の意識も高まった。
  - ・ 事前に打ち合わせをすることによって、会の内容が充実していた。
  - ・ 特に本年度は、基礎・基本定着の時間（月曜日の6校時25分間）の導入に向けて話し合いを重ね、12月から11回実施した。平成21年度は年間30回実施予定である。

##### （2） 授業の充実について

###### 【基礎的・基本的な内容の確実な定着】

各教科で学習目標を必ず板書するよう共通理解し、学習過程に定着の場を位置づけたり、宅習課題の出し方について共通実践を図ったりしている。

###### 【生徒が自ら課題を発見し、解決する授業の充実】

各教科で指導過程を工夫したり、発表や活動の場を設定したりしている。

###### 【研究授業の計画的実施】

全職員による研修を推進するために、研究授業の日は5時間授業で生徒は下校させ、6校時に研究授業を設定し、放課後、授業研究を実施した。また、指導者を招へいし、指導していただいた。

道徳研究授業（1年）・・・10月8日実施

主題名「生命の尊重」 資料名「へその緒」

美術研究授業（2年）・・・1月26日実施

単元名「伝えよう 大切なこと」 題材名「伝えよう 私たちの郷土」

学活研究授業（2年）・・・2月9日実施

題材名「適正をいかず進路を選ぼう」



### 【教科研修の充実】

伊敷中学校で、各教科の研究授業・授業研究に参加させてもらい、教科研修を深めた。(2月)

【成果】 「基礎的・基本的内容定着」と「生徒が主体的に活動する授業」という2点を重点課題として設定したことで、以下の意識が高まった。

授業をする側は 生徒の授業に対する目的意識・問題意識の持たせ方を工夫するようになった。

授業の構成の中で、生徒が主体的に活動する場を意識するようになった。

授業の中で、生徒に達成感を味わわせる場を設定するようになった。

授業を参観する側は 授業の視点がはっきり定まっているので、参観しやすく、授業研究のとき、意見が出しやすい。

「授業参観メモ」を活用し、いろいろな視点で授業を分析することができた。また、よかったところや改善点・アドバイスなどを付箋に書いてもらい、授業研究のとき全員の意見を集約することができた。

授業研究ではいろいろな視点で授業分析をし、授業の工夫・改善に努めた。

### (3) 学業指導の充実について

#### 【授業の基本的な躰の定着】

年度始めに、授業中の基本的な約束について共通理解を図り、実践に取り組んだ。

学力向上推進委員会で、まずは小さな共通実践が学力を高める第一歩であると考え、授業の始まりや終わりの行動の在り方について再確認し、共通理解・共通実践を図った。

#### 【家庭学習の習慣化の推進】

毎日の家庭学習の目標を設定し、取り組ませた。(1・2年 2時間, 3年 3時間)

3点セット, 4点セット(生活の記録, 英語の宅習, 漢字練習等)の提出の徹底を図った。

#### 【学び方の指導の充実(教科学習の仕方, テスト勉強の仕方, 学び方タイム)】

「学び方タイム」(年間4回)の設定と充実

総合的な学習の時間に、学業指導の時間「学び方タイム」を4時間設定した。主な活動は以下の通りである。

	1 年	2 年	3 年
1回	学習の仕方を学ぶ	家庭学習の仕方を学ぶ	中間テストに向けて計画を立てる
2回	家庭学習の仕方を学ぶ	調べ学習の仕方を考える	家庭学習について考える
3回	テストの予想問題をつくる	苦手教科の克服をする	入試までの目標を立てる
4回	テスト結果の分析をする	厚物の活用の仕方を考える	入試までの学習の仕方を考える

#### (4) 個に応じた指導の充実について

##### 【少人数指導，習熟の程度に応じた指導，T T指導の充実，選択教科の指導の充実】

少人数指導，習熟度の程度に応じた指導については，2・3年の数学，2・3年の英語でそれぞれ実施した。

全時間2クラスを3コース，または1クラスを2コースに分け，少人数でそれぞれ指導を行った。

- ・2年 基礎基本コース，総合コース
- ・3年 基礎基本コース(1コース)，総合コース(1コース)，演習コース(1コース)

##### 《コースの決め方》

生徒・保護者の希望をもとに決定するが，必要に応じて担当教師も相談を行う。また，途中でコースを替わることもできる。

##### T T指導の充実

- ・理科実験を中心に，1年生で各学級，週2回，実施した。
- ・英語の授業で，1年生で各学級，週2回，実施した。

##### 選択教科の指導の充実

各教科，生徒の実態や教科の特性等を考慮し，充実を図った。

- 【成果】
- ・ 少人数指導や習熟の程度に応じた指導等を実施し，個に応じたきめ細かな指導ができるようになった。また，生徒の学習に対する意欲も高まり，真剣に取り組む生徒が増えた。
  - ・ 理解不足の生徒に対して，時間をかけて指導でき，授業への集中力や意欲が増してきた。
  - ・ 理解の早い生徒やコースは，応用的な問題にも取り組ませることができた。
  - ・ 少人数による指導で，発表や活動の機会が増え，生徒が学習に意欲的に取り組み，集中するようになった。
  - ・ T Tは授業を二人の教師で指導するので，机間指導や実験等でのきめ細かな指導ができるようになった。

##### 【学業相談の充実，授業外の個別指導の充実】

学び方タイムで個別相談を実施した。

定期的な教育相談を実施した。・・・1学期(5時間)，2学期(5時間)

数学科の習熟の程度に応じた指導のコース選択においては，随時相談を実施している。

始業前，昼休み，放課後等に随時，個別の指導にあたっている。また，学年で期間を決めて，放課後に定着の不十分な生徒の指導を分担して行っている。

授業についての教師の自己評価と生徒のアンケート，外部のアンケートなどを実施した。

教師の授業改善と生徒の学習への取り組みの改善を図るために，全職員の自己評価，全学級のアンケート，各教師1クラスのアンケートを毎学期実施している。また，PTA役員，学校評議員によるアンケートも年1回実施している。教師が自分の授業の改善の視点を得る上で有効である。

##### 【生徒の特性に応じた特別支援教育の実践と事例研修】

特別支援教育係会をもち，生徒の実態等を把握し，その対応策について話し合いをもった。

支援が必要な生徒について，生徒個々の状況を全職員で共通理解を図った。

具体的な支援については，生徒の状況にもよるが，支援が必要な教科を複数の職員で分担して行っている。

## 5 今後の課題

- (1) 教師・生徒を対象に実施した授業に関する評価やN R Tの分析の結果，定期テストの結果を真摯に受け止め，生徒が積極的に授業へ取り組めるような指導の改善・工夫をしていきたい。
- (2) 評価後の分析と手立てを工夫することによって，評価と指導の一体化を図りながら，基礎・基本の定着や生徒が自ら主体的に課題に取り組ませるために，日々の授業の更なる充実を図っていきたい。
- (3) 生徒の学習意欲を高め，活気のある授業をつくる工夫が必要である。
- (4) 学力向上推進委員会の内容や運営の仕方を工夫し，機能化を図る。
- (5) 職員研修の時だけの話し合いで終わらないようにするために，教科や学年，係会等で具体化への話し合いをし，共通理解事項を組織的に実践できるようにしたい。
- (6) 特に教科部会の充実を図り，指導内容や指導方法等について深く研究し，お互いの授業力を高める取り組みを推進したい。
- (7) 本年度取り組みを始めた「基礎・基本定着の時間」を軌道に乗せ，生徒の基礎学力の確かな定着と向上を図る。